

2024年度 広安愛児園事業報告書

1 基本理念

「神の家族」というキリスト教精神に基づくホーム(小舎)制による異年齢・男女一緒の家庭的養護をとおして、「共に生きる」「役に立つ心豊かな人」を目指した自立支援を行う。

2 基本方針

(1) 施設運営

ホーム複数担当制による、きめ細やかな関わりを継続し、様々な人間関係の中での家庭的養護(小規模グループケア、地位小規模児童養護施設)を実施することにより、子どもたちの福祉増進や自立支援強化に努めた。本年度も地域の有識者に苦情処理解決第三者委員を継続委嘱したほか、各児童相談所からの一時保護委託事業や、子育て短期支援事業としてのショートステイ、トワイライトステイ事業には、不十分だが可能な限り応じた。また、地域からのニーズとして体育館やグラウンド、畑等の施設設備利用を希望された方には、利用契約を交わした。

校区小学校と地区子ども会からの要望から、放課後や休日に園庭の遊び場解放を実施した。地区行事の夏祭りや子ども会レクリエーションへの参加など、人的物的な協力を地域やNPO法人との連携と協力を大切にした。この事での収益は無いが、地域の中に児童養護施設広安愛児園が存在し、そこで生活する児童と支援する職員が地域の中で認知されることで、地域に必要とされると施設と人財の確認と同時に、地域に貢献できる施設運営を目指した。

しかし、残念ながら11月初旬に地域の方より「ベビーカーで園内を散歩していたら、女性職員から声をかけられた。その対応方法が不愉快だった。」との苦情メールが届いた。すぐに、謝罪のメール発信を行い、職員ミーティングにて来園者への声かけについて再確認を行った。その後も3通のメール返信があるが、何とか納得された様子であった。普段の何気ない職員対応が、苦情へと繋がる体験となった。

(2) 児童支援

児童一人ひとりの居場所の確保と存在を全職員が認め、個々の個性と特性を理解し、家庭環境と生育歴を十分に把握した声かけや対応支援に努めた。そのことにより、自己肯定感や自己有能感を少しでも自覚できるよう継続的な働きかけを行った。また、児童自身の希望による部活動(吹奏楽、水泳、JRC、)や園外での習い事(ピアノ、水泳)と共に、対外的催し(陸上大会、職場体験等)のPRと参加を推奨することで、全体行事に限らず、個人での活動が可能となり社会性や協調性、忍耐力、正しい自己表現力などの向上にも努めた。

一方、要望・意見箱の設置や毎月のホーム聞き取り調査の継続により性的事案や虐待等の防止を図るとともに、要望解決第三者委員会において、子どもや保護者から出された要望・意見を報告し、助言、意見をいただくことにより児童の基本的人権の尊重や児童のより良い支援に努めた。さらに、第三者委員の先生方には、クリスマス会や進級祝い等の全体行事に参加して頂き、児童への「見え存在」をはかった。

また、子どもアドボカシーセンター熊本 Me:vo による、アドボカシーが原則月に1回実施された。来園されたアドボカイトに対して、希望する児童が思いや考えを職員以外の大人に遠慮なく伝えることで、精神的な安定と自分自身の成長の再確認が目的である。2024年度は、年長児童より直接園長説明を求めてきたケースがあった。関係者に解答したが、納得できないと2名のアドボカイト同席で再度説明を行ったが、正しく理解できたかは不明である。児童からの個人的な要望によって、本園以外の場所や時間での実施も受け入れた。

(3) 職員育成

児童養護施設では、人財確保と人材育成が大きな課題である。熊本県内の児童養護施設も独自に毎月の勉強会と意見交換会を実施されている。しかし、各園の温度差は感じている。

前年度も外部研修は、年間研修計画に基づき可能な限り実施した。日本キリスト教連盟研修、州ブロック研修や西日本ブロック研修及び、熊本県単位の所属部会研修や養護協議会主催の性教育やアドボカシー研修等、対面研修への参加ができた。また、研修内容に応じて推薦した職員の希望があれば、可能な限り参加することで、自身の知識と意欲を高めることができた。

さらに、昨年に引き続き法人内職員研修を若手と新任、一般の3部に分けてリモートで行われた。これによって、所属する施設について再度の気づきや、同法人であるが交流が少ない他施設についても、新たな発見となる研修であった。

2024 年度は、「広安愛児園の活性化」「職員力のレベルアップ」を目的として、中堅 CW4 名が地域小規模児童養護施設担当への異動と、本園内でのホーム職員異動で 9 名の人事異動を行った。異動に関しては、全員が快く承諾されたわけでは無く、諸問題は発生した。新卒新任職員 2 名に関しては、フリー CW として全ホームで多くの経験を積むシフトにした。しかし、残念ながら入院がちであった 1 名が 9 月に退職し、11 月には、心療的理由から 2 名の休養申し出があった。特に 1 名からは、先輩 CW からの対応が辛いとの訴えがあり、この件で両者やホーム職員からの聴き取りを行った。周囲からは「両者に非がある」との意見が出たが、結果先輩 CW は退職することを選び、後味が悪い結末となった。また、雇用形態で労働交渉を訴えていた CW は、本人より退職の申し出があり、最終的に年度末での退職者は、結婚退職者も含め 8 名となった。2025 年度の採用者が 1 名と、厳しいスタートとなる。

3 重点目標

(1) 児童の生命・安全を守る

在籍定員 42 名中 40 名で新年度のスタートとなったが、年間通して大きな在籍数の変動はなかった。在籍する児童の特徴としては、知的や発達障害の疑いを含めると、約 40%の児童が診断名がつき、定期通院を行っている。更に以前からアトピー性皮膚炎や各種アレルギー児童は、多くいたが、近年では、てんかんの他 I 型糖尿病、ポーランド症候群や突発性拡張型心筋症等の特殊な疾病を持つ児童が約 45%在籍し、県内の専門医への定期通院や時には入院があった。

様々な通院は、主に看護師が同行して詳しい専門的説明を医師から受け、それを担当職員に分かりやすく説明を行いミス無く完治に向けての支援を行った。

しかし、上記の様に一生伴う疾病もあり継続的な通院には、保護者の同席を求め納得いく説明を受ける必要もあった。その様な場合には、FSW や担当職員と看護師が一緒に通院する時もあり、児童と共に保護者への理解と協力を求めた。

(2) 児童の権利擁護と施設内虐待の根絶

2024 年度は、熊本市子ども家庭福祉課からの被措置児童虐待疑い通告は無かった。しかし、施設内において職員から児童への声かけ方や対応において、気になる不適切と思われる言動を耳にした。知的や情緒的に特性が強く、日常生活習慣確立や規範意識が不十分な児童の言動には、確かに苦慮されるのは想像がつくが、その対応には厳しい周りの目があり、倫理上許されない。その為には、全職員が自分のことだと理解した上で、児童権利擁護に関する研修や全国児童養護施設協議会アンケートを実施することで、意識の改革と意識の向上を目指した。しかし、職員の年齢や経験年数に関係なく、お互いにそれを指摘できる職員間の信頼関係とシステム作りには、至らなかった。

11 月中旬、出張中の職員所有車の、車体全体に深いキズを付ける事案が起きた。素人目にも、明らかに悪意を感じるキズに警察の介入もあり、数日後に特性を持つ小学生女兒がコンパスでキズ付けたことを担当職員に名乗り出た。車の所有者は、前年度までの担当者であり、今年度ホーム異動していた。「何がそこまで女兒を追い込んだのか」を私たち職員が、児童の心情、立場になって振り返る機会となって欲しい。

しかし、本児を交えて今回の事案の振り返りを試みたが、その雰囲気が「怖い」の印象だけで、物事の重大さや、ショックを受けた所有者の気持ちを察することは、難しかった。

(3) コンプライアンス、ハラスメント重視の職場環境

7 月後半、非常勤職員より雇用形態と賃金に関する、不服申し立て書が届いた。後日、地区労連より組合加入と前記同様の要求書が労働組協議長名で届いた。理事長と数回の協議を持ち、回答書の送付と 2 回の団体交渉（10 月、2 月）を行った。結果、職員の知的、精神的課題が診断書の提出で表面化したことで、トーンダウンし最終的には、職員自身から退職希望が出て終結した。

園内でのハラスメントに関しての正式な訴えは、1 件もあがっていない。しかし、「職員間での噂話や悪口、不平不満が不愉快で嫌な思いをしている。」との声は、相変わらず聞く。年度初めの職員会議において、「職員相互が相手を尊重する態度で楽しい職場にしましょう。」と方針として伝えているが、現状改善の様子は無い。仕事上のトラブルであれば、先輩職員や主任クラスが間に入る事で改善に繋がる場合もあるが、噂話の出所となると憶測でしか無いため、反論する事もできない。

人の意識を変えるのは、至難の業である。無意識に発する言動や必要以上に興味本位で人の情報を広めることによって、この職場に失望し退職や転職を考える職員がいる。

広安愛児園の 50 名弱の職員が、児童の生活支援を目的として働く中で、職員自身が不安で安心で

きない嫌な思いの職場であるならば、児童にとっても安心できる居場所になれないと断定できる。
今年度 10 名の退職者に対して、1 名の入職が何を意味しているのか？職員各々が、現状の課題を自分のこととして受け止めて欲しいが、私自身が、施設長の管理力不足と責任は、重く痛感している。

(4) 施設整備

本園の建物は、築 30 年以上たっており、各ホームで次々と不具合が生じている。ガス器具、エアコン他電化製品が故障しその都度、業者からの修理や買い替えを行っている。特に浴室や浴槽工事は、緊急を要しており、工事計画に関しては、熊本県の審査は合格した。その後、国の審査結果を待っているが、年度中には結果連絡はない。合格の通知が届けば、すぐにでも、工事開始の準備は整っている状態である。

4 児童動静

(1) 入所児童（本園）

令和 6 年 3 月 31 日

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	平均 充足率
月初現員	27 (0)	27 (0)	27 (0)	27 (0)	27 (0)	26 (0)	25 (0)	26 (0)	26 (0)	26 (0)	2 (0)	2 (0)	311 (3)	86 %
入 所	0 (0)	0 (0)	0 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (3)	
退 所	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (0)	11 (3)	
月末現員	27 (0)	27 (0)	27 (1)	27 (0)	26 (0)	26 (0)	26 (1)	26 (0)	26 (0)	26 (0)	29 (0)	23 (0)	309 (0)	85 %

(2) 榎ホーム

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	平均 充足率
月初現員	5	5	5	0	5	5	5	5	5	5	6	6	72	100 %
入 所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
退 所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	
月末現員	5	5	5	6	5	5	5	5	5	0	6	6	72	100 %

(3) 福富ホーム

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	平均 充足率
月初現員	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72	100 %
入 所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
退 所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
月末現員	6	6	6	6	6	6	6	6	6	0	6	6	72	100 %

(4) 広崎ホーム

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	平均 充足率
月初現員	0	5	5	5	5	5	5	5	6	6	6	6	72	100 %
入 所	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
退 所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
月末現員	6	5	5	5	5	5	5	6	6	0	6	6	72	100 %

①入 所 9名

②退 所 11名

③児童内訳 幼児 9名
小学生 17名
中学生 8名
高校生 13名

令和6年度 事業報告（行事・会食等）

令和7年3月31日

	行事名	参加者	活動内容
4月	進級入学祝い (2日)	全児童 全職員	子ども達の進級・入学を祝う会で、学年ごとに祝品（運動靴）の贈呈を行い、高校3年生の児童代表による誓いの言葉で決意を新たに新年度のスタートを切ることができた。式終了後は児童と職員の集合写真や学年単位で写真撮影を行った。
	益城中学校 家庭訪問 (23日)	全職員	年度初めの家庭訪問。全体会議の場で園の概要や現状を説明し、相互理解を図った。全体会議後は、学校担任とホーム担当職員で個別ケースについて協議を行い、対応上の留意点などを確認した。
	創立記念礼拝 (29日)	来賓 卒園生 全児童 全職員	雨天のため体育館で実施した。創立時を覚え、楽しい礼拝となるよう、今年度も礼拝終了後に会食の機会を設けた。弁当店より鉢盛を取り、お客様にも同席いただき、立食形式で会食を行うことができた。今年度は、卒園生の児銀正陽さんにご講話をいただいた。
	卒園生の会 (29日)	卒園生 勤務職員	創立記念式典と同日の夕方18時頃から、園内のパウラスホームで食事をしながら卒園生と職員が交流を図った。
5月	こどもの日会食 (5日)	全児童 勤務職員	こどもの日を祝してコイノニアで会食を楽しんだ。会食後は皆で連想ゲームをして楽しんだ。最後に、子どもたちから夏季球技大会に向けた抱負が語られた。
	広安西小学校 家庭訪問 (9日)	全職員	年度初めの家庭訪問。全体会議の場で園の概要や現状を説明し、相互理解を図った。全体会議後は、学校担任とホーム担当職員で個別ケースについて協議を行い、対応上の留意点などを確認した。
6月	花の日合同礼拝 (9日)	全児童 勤務職員	健軍教会において、教会に捧げる花を各ホームごとに準備し、礼拝に参加し、子どもたちそれぞれが献金を行った。
7月	JCHIP インターンシップ (10日～9月22日)	インターン生2名	カリフォルニア大学デービス校より学生を受け入れ、8週間にわたって児童と共同生活を送る中で異文化交流を目的とする。今年度は2名の男子学生を受け入れ、児童養護の実際を学んだ。
8月	小峯地区夏祭り (3日)	小学生 勤務職員	夏祭りへの参加を通して地域との交流を深める機会となった。小学生は小峯子ども会の一員として、神輿作りから参加し、当日は完成した神輿を担ぎ、法被を着て愛児園内を含む町内を練り歩いた。夜は夜店などを見て回り、職員は準備や撤収に参加した。
	夏休みさよなら パーティー (23日)	全児童 全職員	お客様を含め約150名が参加した。愛児園の中庭を会場に、子どもたちの出し物やラムネの早飲みを披露した。会場内には食べ物コーナーや子どもコーナーを設置し、セルフサービスでの提供を行った。今年度初めてキッチンカーの出店と卒園生が営業するたこ焼き店の出店を行った。どちらも設定価格を安価に設定したことで、利用する人も多かった。

10月	平成ロータリークラブ 交流会 (20 日)	全児童 勤務職員	クラブ会員と一緒に園内の除草作業を行った後、昼食に全員でバーベキューを行い、交流を深めた。
	熊本県養護施設 秋季スポーツ大会 (19 日)	全児童 全職員	施設児童間の親睦を図ることを目的として、施設対抗の親善スポーツ大会に参加。男子はフットサル、女子はバドミントン。バドミントンの部では優勝することができた。
11月	健軍教会 フェスティバル (10 日)	全児童 全職員	午前中の礼拝に出席し、礼拝終了後からフェスティバルに参加した。教会の敷地内に不用品バザーや子どもコーナー、キッチンカーの出店など、販売価格も安価に設定しており、子どもたちもおなかいっぱい食べて遊んで楽しむことができた。
	かくれんぼ大会 (23 日)	希望児童 全職員	児童間、職員間の交流を目的に企画した。児童と職員が混合チームを編成し、所定の時間内に交代で攻守を入れ替え見つからなかった人数で勝敗を決めるというルール。初めての試みのため、実行委員で検討を重ね当日を迎えた。児童からは楽しかったという感想が多かった。
12月	餅つき (14 日)	全児童 全職員	竈の火力不足を補うために調理室でもち米を蒸した。部活動やアルバイト、帰省等で中高生が少なく、職員がつき手となる場面が多かった。参加児童の減少は気になるところである。幼児や小学生もひとり1回は杵で餅つきをする体験ができた。昼食はおこわと豚汁。
	教会学校合同 クリスマス礼拝 (15 日)	全児童 全職員	健軍教会に健軍教会本校、熊本ライトハウス、のぞみホーム、こども L.E.C. センター、愛児園が集まり、礼拝と祝会を行った。愛児園は聖劇を披露し、その他の施設も出し物を披露した。
	クリスマス祝会 (21 日)	全児童 全職員	今年度もホームクリスマスを実施。第1部は体育館を会場に牧師による礼拝を行った。第2部は各ホームに分かれてホームパーティーを実施。ホームの特色を生かした飾りつけや料理で、日頃からお世話になっている幼稚園や学校関係者を招いた。
1月	祝膳・初詣 (1 日)	未帰省児童 勤務職員	正月帰省期間に帰省が難しい子どもたちとコイノニアで祝膳。園長からお年玉をもらい、ホテルキャッスル等から寄贈されたおせち料理をいただいた。祝膳後は職員が引率し、益城町内の神社へ初詣し、一年の無病息災を祈願した。
	児童外出 (2 日)	未帰省児童 勤務職員	年代別に5～6人程のグループに分かれ、アミューズメント施設や商業施設等に出かけ、買い物や外食を楽しんだ。
	児童新年会 (5 日)	全児童 勤務職員	新年を迎えた顔合わせ会。コイノニアで会食し、食事後はビンゴゲームで盛り上がった。ひとり一人に景品が準備しており、嬉しそうに景品を受け取っていた。

	西ロータリークラブ 駅伝大会 (26日)	希望児童 引率職員	3名の児童が参加希望し、マラソンの部に参加した。残念ながら入賞は逃したが、精一杯力を出し切って完走できたことを労った。職員や他児も応援に駆けつけた。
3 月	卒業（就職・進学） 壮行式及び昼食会 (15日)	全児童 全職員	卒業生を励まし送り出す会で、今年度は2名の児童が卒園を迎えた。記念品に印鑑の贈呈を行い、園長よりはなむけの言葉をいただいた。式終了後はホーム単位で記念撮影を行い、コイノニアで卒園生を囲んで食事会を開き、担当職員より励ましの言葉を送った。
	ホーム活動	全児童 全職員 (ホーム担当者)	各ホーム単位、1泊2日の期間で、九州圏内を目的地に設定し旅行を実施した。児童の希望を基に、遊園地やテーマパーク、キャンプなど思い思いの場所で事故なく実施することができた。 子どもたちには楽しい思い出となり、職員との関係も深まる活動となった。